



南舞岡小だより



学校教育目標「学ぼう つながろう 切り拓こう」

学校所在地 〒244-0814 横浜市戸塚区南舞岡4-15-1 (Tel.823-4120,4130)

ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/minamimaioka/>

《雰囲気》をかえりみる

学校長 地主 佐和子

関東甲信地方の梅雨入りが発表されてから3週間ほどたちました。梅雨入り後のプール開きで水泳学習の進み具合も気にしましたが、ここまでどの学年も平均的に進んできています。学校に咲く紫陽花に夏らしさを感じるようになりました。

先日、知り合いと喫茶店に入りました。その知り合いと会話をしていたところ、自分のいたテーブルの前に近寄ってきた2人の女性に気が付き、視線をそちらに移しました。「先生ですね。覚えていますか。〇〇です。」「私は〇〇です。」大変驚きました。名前を言われて当時のことが一気によみがえりました。この女性たちを6年生で担任しました。このあと教え子たちとしばらくその喫茶店で話を続けました。「どうして私とわかりましたか。」「先生、当時と変わっていません。」いやいや変わっていないはずはありません。15年前ですから。

しかし、あとからこう考えるようになりました。確かに、見た目は変わっているでしょう。しかし、声質、話のテンポ、しぐさ等を《雰囲気》という言葉でまとめてよいのかわかりませんが、その人の《雰囲気》は年齢を重ねたからといって必ずしも変わるとは限らないのかもしれないと。

《雰囲気》はその人のもつもので、絶対にこうであるべきという正解はありません。しかし発せられた言葉、行為、態度などが理由となり、対人関係において救われたこともあれば傷ついたこともあるという経験は、誰にでもあるのではないのでしょうか。学校生活においても子どもたちの日常によくあることです。つい相手の《雰囲気》を語る事が多くなりがちですが、自分はどのような《雰囲気》で接していたのかについても合わせて考えていくことを大事にしていけたらと思います。特に低学年の子どもは自分を客観視することは難しいため、手本となる大人が《雰囲気》をつくるのが大切だと感じています。毎朝昇降口で登校してくる子どもたちを迎えていると、子どもたちの方から話しかけてくる日とそうでもない日があります。「上履きを忘れてしまいました。」「昨日から咳とか鼻水が出てくるんだ。」「今日はシャチ（のぬいぐるみ）いないの?」このような話をしてくる子どもたちにとって、話しやすい《雰囲気》が出せているかどうか、自分の《雰囲気》を顧みて省みるそんな人でありたいとも思っております。

7月は全家庭を対象に個人面談が計画されています。面談においても、子どものもつ《雰囲気》のよさや課題を共有できればと願っております。体調管理が難しい季節となりましたので皆様熱中症に注意し、体調を崩さぬようお過ごしください。